

青森・秋田・岩手・北海道 合同商談会 2019

開催内容 受発注取引促進のための4道県合同による商談会を東京で開催



7月4日、TRC東京流通センター(東京都大田区)を会場に、297社489名のものづくり企業が集まり、「青森・秋田・岩手・北海道 合同商談会2019」を開催した。この商談会は、取引拡大に取り組んでいる4道県の受注企業の支援のため、発注企業との面談による自社製品・技術等をアピールする場を提供し、取引成約を促進することで各企業の成長を目指すものである。

より多くの発注企業に参加していただくため、2003年から北東北3県合同での開催となり、昨年にはさらに北海道が加わり規模が拡大した。取引成立額も年々伸び続けており、昨年度の実績は32件/52,329千円であった。



商談会は「指名面談」と「フリー面談」で構成されており、「指名面談」とは事前に参加企業より希望を募るものである。手順としてはまず、申込み締切後、発注側と受注側の企業概要リストが全参加者に配付される。各企業はその情報をもとに、「こんな能力がある企業に依頼したい」「私たちの得意分野に合いそうな仕事を受けたい」といった戦略を練って面談相手の希望を申し込みし、その結果、自社の希望と相手からの希望を加味して最大8回の面談が割り当てられる。各社とも図面やサンプル品を見せ合うなどして熱



のこもった商談を繰り広げていた。

中には面談の希望数が上限を超えていた発注企業もあり、その場合は担当者を増員し、予め2ブースを展開してもらうなどの対応を行ったが、そこには、この機会を十分に活用しようという各社の意気込みが見て取れた。

また、「指名面談」でやむなく希望が通らなかった場合に活用されるのが「フリー面談」である。受注企業各社は、十分な面談時間がない中でも、まずは相手とのきっかけを作り、後日のコンタクトにつなげようと、希望相手のブースに順番待ちの列を作りながら、少ない時間で何を訴求しようかと思案していた。

4道県合同開催の効果もあり、発注企業は関東圏以外に関西や中国地方からの参加もあった。参加数は発注109社・受注188社、面談数は1,027件に上り、平均すると発注側は9.4回、受注側は5.5回の面談機会を得たことになる。

当センターでは、他県と連携して引き続き同商談会を毎年開催していくほか、今年10月には「秋田広域商談会」の開催を予定している。本号11ページのお知らせをご確認の上、ぜひお問い合わせいただきたい。

参加者数	発注企業	109社	184名
	受注企業	188社	305名
	青森県	30社	
	秋田県	64社	
	岩手県	60社	
	北海道	34社	
	計	297社	489名

実施面談数	指名面談	851件
	フリー面談	176件
	計	1,027件



主催：(公財)21あおり産業総合支援センター、(公財)あきた企業活性化センター、(公財)いわて産業振興センター、(公財)北海道中小企業総合支援センター
後援：青森県、秋田県、岩手県、北海道